



【取組の概要】

地方公共団体は、津波浸水による被害を低減させるため、浸水した海水をいち早く排除することが重要です。

浸水が長期化すると、浸水域内には多くの住民や入院患者が取り残され、ボートやヘリコプター等での救助には相当な日数が必要になります。また、浸水域内では、食料等の物資の不足、医療の提供不足、避難長期化での汚物の未処理等による衛生状態の悪化、主要幹線道路や石油基地の浸水による燃料等の復旧作業に必要な物資の不足、災害廃棄物処理の遅れ等が想定されます。

長期浸水は、取り残された住民の避難生活の環境悪化、及び復旧・復興の遅延につながるため、長期浸水の防止対策が必要です。長期浸水によって生じる影響と課題は以下のとおりです。

表 長期浸水による影響と課題

事象	住民や復旧への影響	必要な対策
堤防、護岸等の破損により浸水防止(止水)ができずに津波(海水)が流入	<ul style="list-style-type: none"> 海水の流入による地域の孤立 津波の繰り返しの越流による人的・物的被害の拡大 堤防道路の通行不能によって避難に支障 	<ul style="list-style-type: none"> 堤防、護岸等の耐震化・液状化対策 復旧資材の確保 被災箇所の復旧
排水機場(ポンプ場)が地震による損傷、浸水による機能支障及び動力(電気・油)不足等で排水が困難		<ul style="list-style-type: none"> 排水機場(ポンプ場)の耐震・耐水化及び早期復旧 燃料の確保 排水ポンプ車の配置 応急ポンプの配備
道路機能が消失し、救助・救援、支援物資・燃料等の供給、災害廃棄物処理の遅延	<ul style="list-style-type: none"> 緊急輸送道路の機能消失(供給・搬出ルートの途絶) 浸水域内の多数の避難者救出の遅延、支援物資・燃料等の供給の遅延 	<ul style="list-style-type: none"> 道路啓開の実施 避難者所在確認 避難支援の優先順位 ボートの確保
津波避難ビル等への住民避難が長期化	<ul style="list-style-type: none"> 津波避難タワーでの避難が数日に及ぶ 津波浸水想定区域外へ避難できず、津波避難ビル等での滞在の長期化 避難避難ビルの収容力不足 避難行動要支援者への支援が行き届かない 物資やトイレの不足による避難生活の困難 	<ul style="list-style-type: none"> 津波避難タワー・津波避難ビル等の避難所の確保・耐震化 食料などの備蓄 仮設トイレの確保
燃料供給が滞る	<ul style="list-style-type: none"> 石油基地の被災による供給不足 	<ul style="list-style-type: none"> 石油基地機能確保 代替の供給体制の確保
医療活動が困難	<ul style="list-style-type: none"> 医療施設が被災・孤立し、機能を果たせない 医薬品不足に対し、供給が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ボートによる搬送 搬送先の確保 医薬品備蓄
衛生状況が悪化	<ul style="list-style-type: none"> 汚物流出等で衛生状態の悪化 有害物質の流出 ご遺体の収容・埋葬の遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> 防疫対策 流失防止 ご遺体収容・埋葬体制

5 災害に強いまちづくり計画



【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

- ・梅雨や台風等の時期に大規模な災害が生じた場合、洪水や高潮などの影響による浸水被害が発生し、復旧や行方不明者捜索等の活動に支障をきたすことが危惧されます。排水ポンプ車の支援（施策 9-2-⑬参照）を含め、計画的な排水対策を進める必要があります。
- ・長期浸水の中で移動する際には、足元が見えづらいため、危険予知が不十分になります。河川・側溝・マンホール等での危険箇所について、日常の点検・チェックを行っておくことが重要です。

◆参考資料

- ・南海トラフ地震長期浸水対策の検討（高知県）
南海地震長期浸水対策検討結果（高知市）（平成 25 年 3 月）
南海トラフ地震宿毛市長期浸水対策 検討結果（平成 27 年 3 月）

【事例】

○美波町の取組み

・寺前ポンプ場の整備

- ・美波町の中心部に位置する寺前地区に整備された寺前ポンプ場は、浸水時の内水排除に効果的な役割を担っています。



寺前ポンプ場

○高知県の取組み

・「南海トラフ地震長期浸水対策の検討結果」を公表

- ・高知県は、高知市中心部及び宿毛市中心部を対象に、地盤沈下による長期浸水被害について、「浸水抑制による被害軽減」・「浸水域からの安全な避難・救助」・「迅速な排水による早期復旧」を目的として、取り組むべき対策を検討しています。



昭和南海地震後の高知市内（上）
と現在の高知市内（下）



○宿毛市の取組み

・長期浸水対策

- ・長期浸水とは、地震によって地盤が沈下し、堤防高が海水面より低くなることで背後地が長期間浸水することを意味します。長期浸水は、地震発生による広域地盤沈降や液状化による沈下によっておこります。
- ・東日本大震災では、数ヶ月にわたる長期浸水により、衛生状態の悪化（感染症、ハエ類の発生）、浸水域外への避難困難（滞在の長期化）等の問題が生じました。高知県内でも、1946年に発生した昭和南海地震の際には、高知市内で約1.2mの地盤沈降が生じ、市街地を含む広い範囲で浸水し、約1ヶ月の長期浸水が発生しました。
- ・宿毛市では、南海トラフ地震が発生した際には、最大2.4m地盤が沈降することが想定されて、その対策として、県海岸（港湾）と河川堤防の一体的な整備等が進められています。

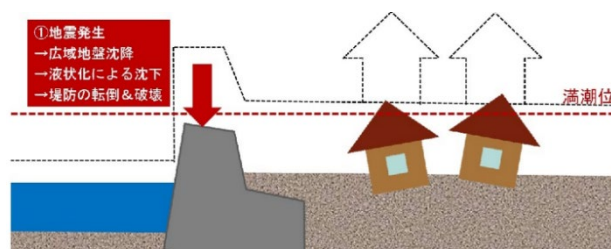
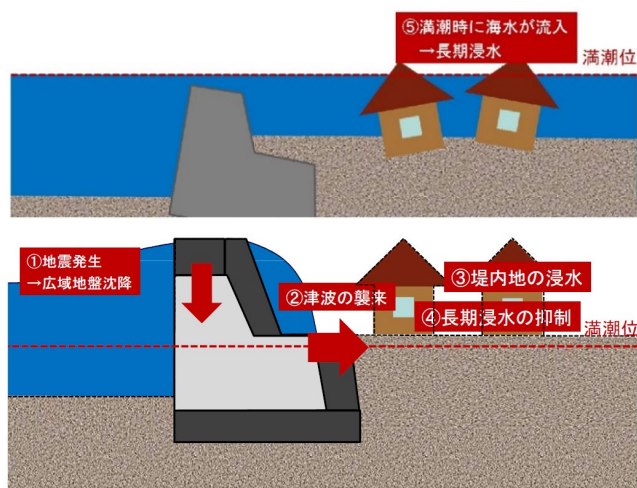


図 長期浸水発生のしくみのイメージ（高知県庁HP）



長期浸水対策のイメージ（高知県庁HP）